

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立 四箇田小学校
教 諭 松田 博光

1. 小単元名 「四箇田団地を 人気者にしよう！ ～みんなの力で 地域を盛り上げよう～」

2. 単元の目標

○ 四箇田団地の良さや課題、住んでいる人々の思いなどを知ること、自分たちが住んでいる地域の実情を知るとともに、地域活性化のために頑張っている人たちの存在を認識する。

【知識及び技能】

○ 調べたことをわかりやすく整理してまとめて伝えたいことを適切に表現したり、これまでの経験から地域を盛り上げるためのアイデアを創り出したりすることができる。 【思考・判断・表現】

○ 四箇田団地の良さや課題を知り、さらに地域を支える人々の思いを知ることを通して自分なりの考えを持ち、持続的な地域活性化への思いを持つことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、本校区の中心的存在である四箇田団地を教材として取り上げる。

四箇田団地はかつて“西日本最大規模”と謳われており、本校児童の多くが住んでいたそうである。しかし現在は全国の団地同様、空き部屋も多く高齢化が進み、本校児童はほとんど住んでいない。校区の中心的存在であり、子ども達の遊び場として人気の場所であるにも関わらず、どんどん衰退している。そんな四箇田団地は、地域の課題や活性化について考える素材として、非常に価値ある教材であると考えられる。

(2) 児童観

本学級の子ども達は、社会科「わたしたちのまちのようす」の学習で学校の周囲の様子を調べの中で、本校区には公共施設（ともてらす早良、早良総合体育館、四箇田公民館）、たくさんの公園（四箇中央公園、四箇田公園、ちびっこ広場）様々なお店や飲食店、住宅、保育園、田畑、そして四箇田団地など、様々な場所があることを知り、地域への興味を持ち始めている。その発展として、総合「たんけん はっけん 四箇田団地」の学習を行っている。学校に隣接する公共施設である福岡市地域交流センター「ともてらす」を主な素材として、地域のじまんの場所について詳しく調べた子ども達は、四箇田校区の良さを実感し、地域について主体的に学ぼうとする気持ちもさらに高まっている。

その中で子ども達が挙げていた「地域のじまんの場所」の多くが、四箇田団地内にある遊具や公園、駄菓子屋であった。つまり四箇田団地とは、子ども達にとって特に身近で親近感のある場所であることが分かった。そんな子ども達にとって当団地を素材として取り上げることは、地域への関心をより一層高めていくであろう。

(3) 指導観

まずは、四箇田団地の遊具を切り口に学習を進めていく。

指導にあたっては、まずは全単元で子ども達に人気の「団地の遊び場」を素材に学習を行う。具体的には、3年生全員アンケートにて「人気の遊び場ランキング」を作成。それらの遊び場を調べて“ひみつの遊び場マップ”にまとめ、1年生に教えてあげようという活動からスタートする。全単元の続きとして、スムーズに学習に入っていけるであろう。

調べる段階では、地域の人々と関わりながら学習を進める。四箇田団地盛り上げていくために、校区の自治協議会長の白石さんと一緒に、自分たちでできることを考える。そして、NPO 法人「なごみの家」代表の宮川さんの力を借りながら、団地を盛り上げるイベントを形にしていく。その過程で、団地の課題や地域活性化への思いなども共有してもらい、「何かできることはないか」を自分事として考えることができるようにする。そして、地域の方々にアドバイスをもらったり、はげましたりしてもらいながら、自分たちで考えた地域貢献の活動を、具体化していく。

地域を支える方々と直接交流することで、より地域への興味関心や地域貢献への思いが高まっていくであろう。

深める段階では、地域の方と協力してイベントを行う。イベントを通して、参加者や一緒にイベントを運営してくれたお年寄り、「なごみの家」の方々からフィードバックをもらうことで、地域貢献への手応えを実感できるであろう。その手応えをもって、これからも四箇田団地を盛り上げるためにできることを考える。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・自分の周りには地域を発展させたいと願う人がたくさんおり、みんなで力を合わせれば地域がよりよいものになっていくこと。

公平性・・・地域を守るために一人ひとりができることを考える。

有限性・・・四箇田団地はこのままではどんどん衰退していつてしまうものであり、守り、生かしていく必要があること。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

コミュニケーションを行う力

地域の方や友だちと考え交流しながらイベントを作り上げていく力

つながりを尊重する態度

一つの目的に向かって、地域の人・お年寄り・他の子ども達など、様々な人たちと

つながっていくことができる力。

進んで参加する態度

自分が「楽しむ」だけでなく、参加してくれた人々を「楽しませる」という、主体的な関わり方をする力。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

地域の方々の力をかりつつ友だちとアイデアを出し合うことで、自分たちだけではできなかった豊かなイベントをつくり上げることができる。

幸福感に敏感になる。幸福感を育てる。

自分たちにとって魅力的な地域を、自分たちの力でこれからも一層魅力的であるようにすることができると実感できる。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを (11-3)

8 働きがいも経済成長も (8-5)




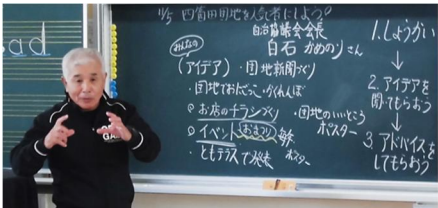
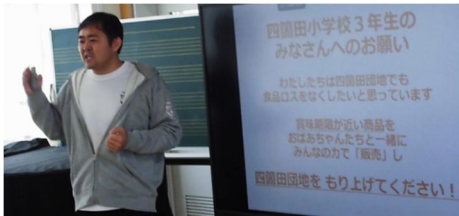
4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① 団地の遊び場調べや地域の方との交流を通して、地域のことを理解している。	① 団地の遊び場について調べたことを、1年生が喜んでくれるようにまとめたり発表したりしている。	① 「大好きな四箇田団地を盛りあげる」という目的意識を持ち、意欲的に地域の方の話に耳を傾けている。
② 「四箇田団地まつり(仮)」を宣伝するために、伝えたい情報を整理してポスターにまとめている。	② 地域の方との交流を通して、四箇田団地を盛り上げるために自分たちにできることを考えている。	② 学習を生かして、地域活性化のためにこれからも自分たちにできることを考えている。

5. 単元の指導計画（全23時間）

しかたのまちのじまんの場所
1位 ともてらす ランキング
2位 団地の公園
3位 だかし屋 しかた団地
4位 ゴリラ砂場 西鉄ストア
しかた中央公園 しかた山

時	学習活動	○ 学習への支援	○ 評価
①	1. 「わがまち 四箇田 たんけんたい」の学習を想起する。 <ul style="list-style-type: none"> ・四箇田団地にあるものが多いよ！ ・ほかにも楽しい遊び場知ってるよ 	○ 前期前半の学習における“地域のじまんの場所ランキング”を想起、四箇田団地内にあるものが多いことに気付かせる。	
①	2. 四箇田団地の人気の遊び場ランキングを知り、班ごとに調べたい場所を決める。	○ みんなの好きな四箇田団地の遊び場アンケートをとり、四箇田団地の遊び場ランキングをとっておく。	
⑦	3. 選んだ場所を見学し、調べる。	○ 調べる目的を「1年生に向けて、とっておきの遊び場を紹介しよう！」とし、目的の明確にしつつ調べる意欲を高める。	ア① (知・技)
3	(1) 見学する	○	
2	(2) 調べたことをオクリンクのスライドショーと壁新聞にまとめる		
1	4. 調べたことを発表する。		イ① (思判表)
1	(1) 1年生に発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・よろこんでもらえて嬉しい！ ・ほかの人にも発表してみたいな 		
1	(2) 四箇田団地はかせ①にも発表する。		
	<p>四箇田団地博士①：四箇田団地に住んでいた青木心海先生</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・昔はもっと楽しい場所だったんだね ・大好きな四箇田団地を盛り上げたい ・青木先生にも喜んでもらいたいな <p>学習問題</p> <p>四箇田団地を 人気者にしよう！</p>	<p>団地はかせ① 青木心海先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校出身の大学生。(たまたま)教育実習生として当クラスへ配属 ・小学校時代に団地に住んでおり、団地の中で毎日元気に遊んでいた ・優しくてよく遊んでくれるので、子ども達に大人気 <p>○ 発表後、昔の四箇田団地にはたくさん子どもが住んでいたこと、いろんな遊びをしたり、楽しいイベントがあったりしたこと。さらに、現在は空き部屋も多く高齢化が進んでいるという課題も伝えてもらう。</p> <p>○ 子供たちの大好きな青木先生から「四箇田団地をもっと人気者にしてほしい」と伝えてもらい、学習問題へとつなげる。</p>	ウ① (主体的)
③	5. 四箇田団地を盛り上げるために、自分たちでできることを考える。	○ まずは自分たちでできることを考える。どの意見も否定せず、思いつくままにどんどん考えを出してもらう。	
1	(1) まずは自分たちで自由に考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・団地でお祭りをしたら盛り上がりそう ・団地全体でおにごっこやかくれんぼ ・四箇田団地のいいところポスターを作っている場所に貼らせてもらう 		イ② (思判表)

1	<p>(2) 四箇田団地博士②にアドバイスをしていただく。</p> <p>四箇田団地はかせ②：自治協議会会長 白石亀則さん</p>  <p>(3) 四箇田団地博士③と交流する</p> <p>四箇田団地はかせ③：なごみの家代表 宮川伸吾さん</p> 	<p>団地はかせ② 白石亀則さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長らく四箇田団地に住んでいた ・「秋祭り」「校区運動会」など、数々の地域イベントの中心人物 ・毎朝通学路で立哨をしてくださっている <p>○ 実際にイベント等を行うにはどうしたらよいかわからないという壁にぶつかった子ども達に、校区の自治協議会会長 白石亀則さんと出会わせる。自分たちで考えたことを伝え、今後どうしていくとよいかの意見をいただく。</p> <p>○ 白石さんから、お祭りのイベントをサポートしてくれる方とつないでもらう。</p>	ウ① (主体的)
⑥ 1 3 2	<p>6. 「四箇田団地まつり（仮）」の準備をする。</p> <p>(1) 役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びの店2（わなげ・商品つり） ○ わたがし屋さん ○ フードサイクルの店（おかし・ジュース） ○ 接客・呼び込み（歌・お笑い・ダンス） <p>(2) お店の準備をする。</p> <p>(3) 宣伝をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① チラシ・ポスターづくり（手書き・キャンバ） ② 配布・掲示 	<p>団地はかせ③ 宮川伸吾さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四箇田団地にある介護予防サービス等を行うNPO「なごみの家」代表 ・フードサイクルや「ばあちゃんカフェ」など、地域共生のための積極的な取り組みを行っている ・学校との連携にも非常に意欲的 <p>○ NPO法人「なごみの家」代表理事 宮川伸吾さんより、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設を貸していただけること ・できそうな内容のアドバイス ・なごみの家の「フードサイクル」活動にも協力してほしいこと ・おじいちゃんおばあちゃんを元気にする手伝いをしてほしいことを伝えてもらう <p>○ 具体的なお店の数・種類等は、宮川さんと担任とで打ち合わせ、調整する。</p> <p>○ チラシの配布については、白石さんや学校長にお願いする。掲示については、団地・学校の掲示板に掲示させてもらう。</p>	ウ① (主体的)
② ③ 1 1	<p>7. 「四箇田団地まつり（仮）」を開く。</p> <p>8. 活動のふりかえりをする。</p> <p>(1) お客さんのアンケートをもとに、活動をふりかえる。</p> <p>(2) これからも、四箇田団地を盛り上げるために自分たちでできることを考える。</p>	<p>○</p> <p>○ 地域貢献の手応えを実感してもらうための素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんからのフィードバック(アンケート) ・一緒に店番をしたお年寄りの声 ・売り上げへの対価としての返礼品 	ア② (知・技)

5. 成果と課題

3年生の総合学習において、地域の課題を自分たちの手で解決していく授業実践を行った。具体的には、「課題だらけのオールドニュータウン」である四箇田団地が、本校の子ども達にとって、大切な遊び場であるというギャップを切り口に、「四箇田団地を人気者にしよう」という目的意識のもと、自己効力感をしっかりと感じながら地域を盛り上げていくというものである。

本校執筆時点ではまだ学習の途中であるが、ここまで以下の成果と課題が見られた。



団地祭りに向けて、「団地を盛り上げるぞ〜！」と気合十分の子ども達

(成果)

- 子ども達・地域の方とつくりあげていくことができた
- 継続的・双方向のつながりを持つことができた
- 地域貢献への実感が持ちやすかった

(成果の考察)

3人の「四箇田団地はかせ」との、継続的・双方向のつながりを大切にしたい。

まずは、教育実習生の青木先生とは、近況の報告をしたり応援メッセージを送ってもらったりした。その度に、子ども達のやる気が高まった。自治協議会長の白石さんには、子ども達が広く宣伝するサポートを依頼し、「自治協議会だより」に子どもが書いたイベント案内を掲載、校区内全世帯に配布していただいた。また、近況のやりとりもしている。「なごみの家」の宮川さんには、計画の段階で生じた疑問などを、その都度担任が取り付いで回答をいただいている。例えば、「ゲームの価格設定はいくらにしたらよいか」や、「わたがしにはどんな味の種類があるのか」などである。

学校が間に立ちつつ、子ども達が「社会と連携しながら 思いを実現させていく」という過程を大切にすることで、子ども達が「自分たちでやった」という、手応え、自己効力感を感じているようである。現在まだ学習の途中であるが、学習終了後に具体的にどれくらい手応えを感じたのか、どんな場面でそう感じたのかなどを子ども達からアンケートをとって、最終的にきちんと整理して今後につなげていきたい。

通信や懇談会で、保護者の方にもイベントについて告知したところ、「仕事を休んでいきます。」「知り合いを連れてきていいですか。」という声も多く、実際に楽しみにしている方が多い。イベント当日は、多くの来場者があるであろう。

(課題)

- 当初の見通しが甘く、計画とは大きく異なる内容になった
- 今後はどうつなげていくか

(課題の考察)

当初の想定では、「ひみつの遊び場マップ」をオンライン掲示板アプリ「padlet」を活用して学校全体、さらには地域の人にも広めていく流れであった。

しかし、子ども達にさらなる目的意識を持たせることができなかった。さらに「padlet」を活用した「ひみつの遊び場マップ」は、google map にすらあまり触れたことがない3年生の子ども達にとっては、ハードルが高いものであった。決定的なのは、子ども達は「ひみつの遊び場」の学習に飽きてきていた。「ひみつの遊び場」だけで引っ張っていくのには、限界があることに、やっけていく中で気づかされた。

何より、ここまで地域の方との直接的な関わりもほとんどなく、「社会に開かれた教育課程」とは、ほど遠いものであった。

結果的に価値ある人材に出会えたことで、運よくよい方向に進むことができたが、完全に結果オーライであり、私自身の見通しが甘かった。

また、今回の学習はいい形で終わることができそうであるが、このままでは今年度の単発で終わってしまうであろう。学校全体で、今後もこのような学習を行うには、3年生の行事化したり、学校全体を通してカリキュラムを組んだりする必要があるだろう。そして、私がいなくてもそれらの学習がまわっていくように、宮川さんのような地域人材や、地域の会社や産業、そして保護者などを広く巻き込んで、学校はファシリテーターとしてやっけていけるような仕組みづくりができるとより継続的・効果的な学習ができるであろう。まずは私自身が、校内にそのような教員仲間をつくっていききたい。

現在の学年終了時に目指す姿
確かな学力と豊かな社会力を身につけた心身ともにたくましい子どもの育成

自分だけでは思いつけないような考えをまとめてあげたりするための話し合いの方法って、とっても便利でいいな。

国語「こんな係が クラスにほしい」
話し合いの目的や話し合いの進め方を明確にして話し合い、互いの意見の共通点や相違点に注目しながら考えをまとめた。話し合いを進めるにあたり、ブレインストーミング・KJ法の手法に出会い、考えをまとめていった。その際オクリンクを用いて話し合いを進めた。話し合いの手法や、ICTを用いた話し合いのスキルを得、その利便性も感じる事ができている。

学活「お楽しみ会をしよう」
国語で身につけた話し合いのスキルを活用して、お楽しみ会の計画を立てた。その結果「水かけまつり」「3の1まつり」を行うことになり、子ども達にとって大満足のお楽しみ会であった。国語で身につけた話し合いのスキルの使い方を、これからもそれを使っていこうとする意欲を育てることができた。

「楽しい思い出をつくる」という共通の目的に向かって、友だちとわいわい話し合いながら考えをつくっていくのって、楽しいなあ。

**総合学習「四箇田団地を 人気者にしよう！
～みんなで地いきをもりあげよう～」**

○ 主に養いたい ESD の資質・能力
コミュニケーションを行う力
地域の方や友だちと考え交流しながらイベントを作り上げていく力。
つながりを尊重する態度
一つの目的に向かって、地域の人・お年寄り・他の子ども達など、様々な人たちとつながっていくことができる力。
進んで参加する態度
自分が「楽しむ」だけでなく、参加してくれた人々を「楽しませる」という、主体的な関わり方をする力。

○ 主に育てたい ESD の価値観
世代間の公正
地域の方々の力をかりつつ友だちとアイデアを出し合うことで、自分たちだけではできなかった豊かなイベントをつくり上げることができる。
幸福感に敏感になる。幸福感を育てる。
自分たちにとって魅力的な地域を、自分たちの力でこれからも一層魅力的であるようにすることができると実感できる。

今まで気づけなかったけど、校区には素敵な場所がたくさんあるんだなあ。

総合学習「わが町しかた たんけんたい」
学校の周りには、公共施設・公園・お店や飲食店・住宅・田畑など、様々な場所があることを知り、地域への興味を持ち始めている。さらに「じまんの場所」ランキングをつくり、実際に地域の方の案内のもと見学することで本校区の良さを実感し、地域への探求意欲は高まっている。なお、ここでの地域の方との関わりは、交流というより一方通行のものである。

国語「わたしの町の よいところ」
相手に伝わるように文章の構成に気を付けながら、地域のおすすめの場所を文章に表し、伝え合う。ここでは、総合「わが町しかた たんけんたい」の学習を想起しながら場所を選定する。また、「四箇田団地まつり(仮)」でお世話になった地域の方々にもプレゼントし、喜んでもらうことで地域とのつながりを実感する。

校区の素敵な場所を、お世話になった人たちにも伝えてあげたいな。

確かな学力

豊かな社会力

国語「つたわる言葉で話そう」
国語「お気に入りの場所、教えます」
学活「お別れ集会の計画を立てよう」

総合(3年)「知りたいなアジアの国」
総合(4年)「ともに生きる」
総合(5年)「米作りはかせになろう」

